(仮称) 太良上池・下池公園保全活用計画策定等検討委員会 第6回

会議録

日 時：令和2年9月4日（金）

19：00～21：00

場 所：大草会館

1. 開会

事務局(市) : 定刻となりました。会を始めさせていただきます。委員の皆様におかれましては、本日もお忙しい中、また夜分にかかわらずのご出席をいただきまして誠にありがとうございます。それではただいまより第6回（仮称）太良上池・下池公園保全活用計画策定等検討委員会を始めさせていただきます。議事に先立ちまして委員の交代がありましたのでご紹介させていただきます。小牧市の都市政策部次長が鶴飼から水野に交代いたしました。

事務局(市) : 水野です。よろしくお願いいたします。

事務局(市) : 事務局につきましても人事異動により交代がありましたのでご紹介させていただきます。みどり公園課長が泉から、昨年度課長補佐をしておりました丹羽に交代いたしました。

丹羽課長 : 丹羽と申します。よろしくお願いいたします。

事務局(市) : 申し遅れましたが本年度よりみどり公園課でお世話になります課長補佐の佐橋です。どうぞよろしくお願いいたします。それでは小牧市を代表致しまして都市政策部次長の水野よりご挨拶申し上げます。

水野次長 : 委員の皆さん改めましてこんばんは。本年度より委員として参加させていただきます都市政策部次長の水野でございます。本日はお忙しい中、(仮称) 太良上池・下池公園保全活用計画策定等検討委員会にご出席いただき誠にありがとうございます。私は平成27年から4年間みどり公園課長をしておりました、こちらの基本計画策定を26年から3年間になります、そのときに担当させていただきました。こちらの保全計画検討委員会を立ち上げた時も1年間は皆さまと一緒にやらせていただき、非常にお世話になったという事で感謝申し上げます。こちら30年から検討委員会を発足して、県の天然記念物でありますマメナシ自生地の保存活用のあり方ですとか、本公園の実施計画等について、皆様方には検討を重ねていただきました。本日は最終の検討委員会で、実施設計のために保全活用について、またその他、公園の名称について等を議題としております。皆様方には様々なご意見をいただきまして、よりよい計画ができるようお願いを申し上げます。冒頭の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局(市) : ありがとうございます。次に配布資料の確認をお願いします。

(配布資料の確認)

事務局(市) : ここで会議の傍聴についてご報告申し上げます。本会議は公開が原則となっており、本日4名の方から会議の傍聴の申し出がありましたのでご報告申し上げます。それでは議事進行につきまして委員長におつとめ頂くことになっておりますので岡田委員長に議事の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

岡田委員長 : 委員会としては最後という事なので、忌憚ないご意見をよろしくお願ひしたいと思います。6回目で最後という事なのですが、本当に10年10年と言ひ続けていましたけれど、もう1回きっちり見たら、2008年に地域の人たちがまず検討委員会を起こされて、近くの大学の専門の人間として何回か参加させていただいて、地域ではそのとき22回会議を行われて報告書をまとめられた。それが2008年。産官学という事で造形大と小牧市さんと基本構想をまとめるという事を2009年。そして2010年に自然環境調査をやりました。そこから2011年に一回、地域の人たちと報告会をやっています。造形大がうけていた時には野鳥観察会を何回もやって、夜の昆虫観察会もやって、もちろんマメナシの観察会もやって。そういう風に地域の人たちと非常に密接にやれた時期が2009年2010年です。2011年に造形で全体にまとめた報告会を地域の人たちと、今回のメンバーの中で半分くらいがその時からの方々です。そして2011年に報告会を行いました。それからまるまる5年空いたのです。その間に、2011年に大草マメナシの自生地が県の天然記念物指定を受けた。関わっている場所の位置付けみたいなものがある部分でしっかりなされたのが2011年。そして今度オオバさんに入ってもらって全体を最終とりまとめということで、僕自身は全体を最初から見ている人間としては、基本計画、基本設計、実施設計ということで、6回の委員会で皆さんに意見をもらいながら最終まとめが今日です。最初から関わられている人は2008年からですので12年。そしてやっと来年度、再来年度で工事を市の方でやっていただけるための、最終の本日の確認という事です。最初に振り返りを皆さんに申し上げて、そして実施設計の確認を次第1,2,3にしたがってオオバさんの小林さんのほうからご説明をお願いします。

オオバ小林 : ご無沙汰しておりました。コロナの関係で前回、急遽順延になりまして今日が第6回となりました。皆さまから頂いた意見をもとにプランを作っていましたので、今日は最終回という事で2時間で進めていきます。次第に沿って進めていきます。

2. 報告事項

(1) 第5回委員会の開催に代えて行ったこと

オオバ小林 : 事務局で調整しながら検討を行ってまいりました。資料1をご覧ください。
(資料1説明)

以上が今までこの半年の間で行ってきた内容です。

続いて本題に入ります。

3. 議題 「実施設計の確認」「保全活用計画書の策定」

オオバ小林 : 最初に今回の提示資料として、実施設計平面図の案、それぞれのエリアの平面図の案、主要な施設の詳細図を添付しています。まず内容について簡単にご説明して、その後で各委員から頂いた意見をどのように反映したかをご説明していきます。

(資料2説明)

<シェルターについて>

岡田委員長 : 追加資料1を見てください。アイソメという形でテラスがこういう風になっている、小さな階段は15センチくらいで降りて、大きな段は30センチくらい、観察会の時には大きな段のところがベンチになる。普段はそこから池を眺めるという、こういう大きなデザインになっています。

オオバ小林 : 見晴らしもよくて風が通りそうで気持ちがいいですね。左上の所が雨の日でも作業ができるようになります。上からでも下からでも開放的な施設だと思っています。

岡田委員長 : 倉庫は小さすぎないかというご意見があったのですが、鞍ヶ池の見学をした時の資料を取り寄せたら、鞍ヶ池はいろんな道具が入っていましたが、十分の大きさでしたので、このボリュームとしています。あと、建築の構造とどう絡ますかは、まだデザインを詰めています。ご心配をおかけしましたけれど、十分物が入ります。

オオバ小林 : 立体図の緑色で囲ってあるところが倉庫の位置です。

岡田委員長 : そうです。今は柱の端っこにくっついていますが、ちょうど真ん中にするデザインで詰めています。

<施錠扉について>

岡田委員長 : 最初は両側とも幅が1m50cmくらいの小さいものでいいと思っていたのですが、委員のご意見で、管理車を入れるようにという事で2mは欲しいと。そして、2mはすぐぶつかるので幅を約2m70cmにしています。増田先生も入られてる、今枝さんも地域の自然保全を徹底的にという事でやられている事と、やはり管理上できるだけ強固なものであることとの両方のすり合わせを、デザインとしてやれないかなと。何でもかんでも自然素材をという事でなく、管理にも適切な強度を持ち、且つできるだけ自然を、という事をデザインとしてやろうよ、というのをオオバさんと話ながら詰めていきました。

オオバ小林 : なかなか使い勝手がよく、尚且つちゃんと作ってあるので、壊れない素材なのかなと思います。

<丸太階段について>

岡田委員長 : 役所でお話した時に、丸太階段はやっぱり壊れるねと。いうことで、この辺も詳細をもう少し詰めていきますが、できるだけ自然素材を使いながら、尚且つ強固なものをという事をどこまでどう決まるかという事をやっていければと思います。

(1) 実施設計の確認

②サイン表示内容の検討(①、②順番入れ替わり)

<サインについて>

岡田委員長 : 歴史をどこまで書けるかというのを、小牧市史とか、そういうものをざっとまとめたものです。地元の方も大勢見えますので、こういうものをもう少し入れたらとご指摘いただきたいのと、基本的には大草村絵図という 1845 年、弘化 2 年の絵図があります。今回の場所が赤丸で示してあります。大草全体の村絵図があって、たくさんのため池もある地域ですよ、というのを左側に言葉として添えてまとめています。それから下のかいどりの様子ですが、最初期の委員会、造形がやっていた頃の時に地域でお声かけいただいてかいどりを見に行ったときの写真です。僕が撮った写真です。これをそのまま使っているのかどうか。10 年くらい前なのでこの子は今高校を卒業しているかもしれないので。使っているかどうかお聞きしたい。それから、この場所を説明するのに、受水域と利用域を模式図化した図は、農水部署の人からの聞き取りで僕のスタッフが画いたものです。これは、実は地権者の問題もあってかなり難しいことです。これをもう少し模式絵図にします。これもまた地域からご意見いただければと思います。こういう形で歴史をまとめていますが、小牧市史とか、手に入るその辺のものからの見立てですのでご意見下さい。次が、太良の植生ということで、増田先生は鳥や植物などの看板は要らないと、やはり生態学者からすれば、曖昧な示し方はしないという想いが非常にあります。それでも子どもたちにとって何らかの形で示すというのは、やはり示したいと。ただ、今は植生図を張り付けてあるので、これをいわゆる模式図化するのに、植物のどれを抜いたらいいかのご助言と、それから根本的にご意見があればお聞きしたい。植生断面を入れていきますので、同じ樹の名前が並んでいます。何らかの形で子どもたちに特徴的な、竹林があるところとマメナシがあるところと、コナラ林のところと。そういう風に抜き出していますけれど、この辺も根本的にご意見をお願いします。次が水鳥。これも日本野鳥の会にお願いして観察会を何回か行った時に出した鳥の名前を並べているだけです。実際には先ほどのビオトープを覗く窓の壁面にこれをくっつけたらという事です。これも数が多すぎますので、鳥の名前だけでいいのか、少し内容を入れるのか。実際に写真はネットから取ったものなので、実際にこれを即使えるわけではない。そういうものは自然系に強い専門の看板メーカーがありますので、そこが持っている写真やイラストレーション。こ

これは鳥の観察の場所につけますよ、という事です。それから、情報看板は数少ないですけど、太良の里案内です。これをもっと簡略化します。場所の説明が左側。右側には緑地を使うのに注意事項を、これは小牧市さんからちゃんとした言葉をもらって整理した看板が、シェルターの横と老人憩いの家の入口ぐらいなのかなという事です。もう一つ、マメナシの案内板をひとつ、それをぜひ増田先生にお願いしたい。看板の大きさは 1800×900 の大判と、900×600 の小さい看板です。先ほどの植生全体の所には、天然記念物のマメナシがありますよ、と、それぐらいの頭出しをしておいて、マメナシの観察会をやる時に 900 ぐらいのいくつかの板に、その説明のベースを出していただけるとありがたい。ですから、今日の看板のたたき台を示していますので、歴史の事、植生の事、マメナシの事、地域で田んぼに入っちゃいけませんよとか、あれこれしてはいけませんよ、まで、地域の声もまとめられるようなことを、やれればと思っています。

オオバ小林 : 一つ目のサインについて、この場所を皆さんに知って頂きたいということと、あまり情報として必要ないものまでは出さなくても、吟味した中で、今 5 つのサインがあります。これについて、どういう風にやっていくかという大きな方針を決めておいて、個別にご相談を申し上げるという風にできればと思っている。最初の太良の里、これは、まず古図、これはこの辺りの図面を、市の市史からですので、市の著作権の問題があると思いますので小牧市にお願いしたいと思います。写真類に関しても、被写体になっている子どもが誰か分かる人いますか。

岡田委員長 : わかる人いますか。井上さん、近藤さん。

井上委員 : わかります。

岡田委員長 : わかりますか。これも顔を出したらいけないのならイラストにしますし。

今枝委員 : イラストにはしたくないですね。承諾をとっていただければ。

今枝委員 : この辺は“かいどり”という言葉でいいのですか。地元の方々が使っている言葉が一番いいと思うのですが。

岡田委員長 : それもあります。池おとしだったり、いろいろですよ。

稲垣委員 : “かいぼり”。

今枝委員 : たぶん“かいぼり”だと思うので、その言葉の方がいいと思います。

オオバ小林 : では、それで統一します。地元の名前にします。“かいぼり”。

増田委員 : あと、歴史は昭和からしか書いてないですが、もっと古いですよね。そんな古い歴史があるならもっと言った方がいいと思うので、古い、歴史があるというのがここの人たちの誇りだと思うので、それは入れた方がいい。

オオバ小林 : どのぐらいさかのぼりそうですか。

岡田委員長 : 大草絵図の 1845 年は。

増田委員 : 1845 年ですけど、それより前から。

今枝委員 : 鎌倉時代には絶対にありました。学芸員さんが 3 人いらっしゃるの、さうとう古いんですよと話をしていました。お水が湧いて一番いい場所だ。

増田委員 : きっちりわからなくてもいいけど、時代くらいは入れておいたらどうですか。

岡田委員長 : その辺の何か資料とか。

今枝委員 : 文化財課で何かわかりませんか。

事務局(市) : 調べてみないとわかりません。

岡田委員長 : 文化財課の方でちょっとご意見、アドバイスいただければ。結局、今の資料でいっぱい出せるものがここまでしかまとまっていないので、ぜひ。あと、写真の件。

オオバ小林 : 写真の件はOK もらえればそのまま残っていきますよね。

今枝委員 : ご本人に確認取っていただくことをお願いしてもよろしいでしょうか。

井上委員 : かいぼりのとき現場で見たことはあるけど、どなたか、というのはわかりません。それこそ稲垣さんはよくわかるのでは。

稲垣委員 : ちょうど僕が美土里の会の会長やっているとき、大きな3つの池があり、3年に1回ずつかいぼりをやっていた。ですから、会で写真を撮っていますのでもっといい写真があると思う。現在も会は続いていますから。

岡田委員長 : では、それを見せてもらって、いい差替えの写真を地域から出してもらおうという事をお願いします。それから左側の歴史をもう少し文化財に助けていただいて、少しこれにこの辺の言葉をこう加えてくれと言っただけです。

今枝委員 : 洞という言葉もさうとう古いと思う。

岡田委員長 : ひっくり返すとこっちがひっくり返って、それ以上がなかなか出せなかったのです。

オオバ小林 : わかりました。その内容についてはちゃんと歴史を整理して、小牧市の中でも歴史的に意味のあるところであるということをやちゃんと記録として残していきたいという事ですね。あとは、写真、文献については、それぞれを探していくという事で行きたいと思います。

岡田委員長 : ぜひ文化財課さんがこの内容に対して、歴史の所だけではなくてこの辺のことも入れておいた方がいいよ、というアドバイスをぜひいただければ。お願いします。

オオバ小林 : 続いて自然、植生について。

増田委員 : 太良の里をやるのであれば、断面植生ではなくて、里地里山の特徴を書いて、水田雑草が残っているとか。今水田雑草って無くなってしまったのですが、ここはあるんですね。だからそういう水田と里地里山のコナラが残っているとか、湿地帯があるくらいの方が、植生図を描くよりは、なぜこの太良の里がいいのかというのを書いた方がいいと思う。環境省のHP行くと、里地里山林がなくなっているせいでいろいろな植物が絶滅してるが、それは、太良の里を残すことで生物多様性が保護されますのほうがいいのではないですか。植物の名前だけなら植物の絵でいいのだけれど、それやると子どもは花を咲いているのを探すけれど、いつも花が咲いているわけではないから見つからなかったりしてがっかりして生えてないじゃんという事になってしまうので、そういうやり方ではないやり方をした方がほんとはいいかなと思います。愛

知県がモニタリング 100 というものを出していて、モニタリング 100 の植物はここにあります。モニタリング 100 の植物を代表みたいにして出してあげば、森と緑づくり税に少し貢献している感じにはなるかなと思う。植生はいらないのではと。

岡田委員長 : まとめかたが分からない。

増田委員 : 里地里山が生物多様性を維持しているのだというのを伝えたい。

柴田委員 : 里山に見られる植物と、水辺で見られる植物と分ける。水辺は水田、畔と書いてあるが、水田雑草というのか、その辺も分けてやると一番わかりやすいのではないかと思う。

岡田委員長 : わかりました。それを誰がまとめるのですか。

今枝委員 : さっき増田先生がおっしゃっていた愛知県のモニタリングの中にはみんな入っていますよね。昆虫も鳥も。植物も動物も魚も全部入って何集かになっている。

岡田委員長 : 鳥も、それとこれを、実際に日本野鳥の会に、その時に引っ張った名前なので、それと併せてオーバーラップするものに、あとのものを抜くか。

増田委員 : 抜いたらわかりやすいですけど、こどもにモニタリング 100 を愛知県でやらせようとしているので、そのリストを挙げておいた方がいいかもしれないですけど、分かりません。生物多様性という看板をつくるのはいいとして、植生というのはつくらなくてもいいのでは。

オオバ小林 : この里そのものを紹介するという事ですね。

岡田委員長 : その辺も今話を聞いてまとめるといっても、なかなかまとまりきらないので、何らかのやり取りできるシステムを。

今枝委員 : 看板作るのはだいぶ先ですよ。

オオバ小林 : でも設計はあげなければいけません。板面の内容は。

今枝委員 : ちなみにインクジェットでやりますか。耐候性はどうですか。10年持ちますか。10年持つものはないですか。

岡田委員長 : そうです。結局は彼らが値段を出すときには、イラストレーションの数だとかそういう事です。どれだけそれをしなければいけないのか、手持ちのものが既にこれだけあるだとか。今の県のモニタリングの、それはもういろいろなところでやられているから、イラストレーションがあるのか。

増田委員 : 県でやるのはかなり古いのではないですか。

オオバ小林 : どうでしょうか。県の写真提供は。森みどり税の事業ですし。

岡田委員長 : 県の持っている写真きれいですか。

増田委員 : きれいです。ちゃんと図鑑になっています。

今枝委員 : 1冊の本になっています。

オオバ小林 : それはいいですね。

増田委員 : お金をたくさんかけているので使ってもらったら喜ぶ。

- オオバ小林 : ではその線で、里を紹介するという事で。里と、太良という地形だとか、なぜいいのかという事を掘り下げのような。里、水辺、自然、この辺の関係性ですね。
- 今枝委員 : 話の腰を折るようですが、僕は植生断面図は美しさがとても好きです。自然を表現する方法はこういう表現があるな、と。最初見た時は感動しました。描く人の愛情がこもっていて。方針転換になってしまいますが。
- 柴田委員 : 僕も断面図は欲しい。断面図の中にほとんどの植物は入っています。写真ではその中のいくつかしかのせれないですよ。
- 岡田委員長 : 僕も最初に造形でうけて専門に植生図を作ってもらっているわけだけれど、オオバさんと 1800×900 の中で、特徴的なのは、マメナシのところを切って池で、そしてコナラ林。それを一つでどうだという。だけど、それでは全部を説明しきれないので、単純には特徴的なこの4つを引っ張り出してとりあえず皆さんのご意見を。それもこういう答えが出るまで、ここまででもだいぶ苦労しています。
- 増田委員 : それでは、これは残してください。
- 今枝委員 : 4つを僕は残してもらいたい。この4つの中にはほとんどの植物が入っている。写真では数少ないものだけでいいと思う。
- 岡田委員長 : そうすると今の県のモニタリングの話とを、うまく編集としてどうやって重ねるかということ。
- 増田委員 : 写真はやめましょう。
- 岡田委員長 : 写真は要らないのです。断面図は断面図でいいと言うご意見も。
- 増田委員 : 写真は全部消して、断面図を残して、尾張北部生物多様性ネットワークを入れて、これをやる時には小牧市役所にモニタリング 100 をもってきて積んでおく。それを持っていく。
- オオバ小林 : 倉庫の中に入れておけばいいですね。鳥は、増田先生お願いします。
- 増田委員 : 鳥はオスとメスとつがいで色が違うから、やるのだったらちゃんとオスメス両方載せた方がいいけれど、どうしたらいいですか。わからないです。鳥の専門は誰か。
- 柴田委員 : 多すぎる。大きさが。
- 今枝委員 : 因みにせっかくデザインのいい公園ができるじゃないですか。全体の雰囲気、国立公園っぽい雰囲気。そこにペタペタ貼ってあると景観を損ねる感じがあるかもしれません。
- オオバ小林 : 統一的なちゃんとしたルールがあって、大きさをやるのか、オスメスとか。
- 柴田委員 : 大きい鳥は大きいように、小さい鳥は小さく。
- 岡田委員長 : どこかで鳥の看板でいいものはありますか。
- 今枝委員 : 今、ネットで調べれば写真が出てきてしまうので、それ以外の情報の方が大事なのではないかというのが増田先生の意見ですよ。
- オオバ小林 : 検索しますよね。

今枝委員 : 名前さえ分かれば、ネットで見ればすぐわかってしまうので。きれいだし、拡大できるし。

増田委員 : リストだけ入れといたらどうですか。

オオバ小林 : 言葉がならんでいるんですか。

今枝委員 : もう一つは枠だけ作って抜き差し看板にするとか。劣化した時に新しいものに変えるとか。

柴田委員 : いろいろなところにバードシェルターがありますが、そういうところに大きい看板があるのは、やはり鳥の大きさ、名前が書いてあるものが大抵はある。種類がすぐ分かるように。あと留鳥か、冬鳥かくらいは書いてある。ぱっと見た時にどういう名前の鳥が来ているのかが、誰でもわかるように看板が置いてある。調べろという意味ではなくて。

増田委員 : 何が見たいですか。キンクマとか。

オオバ小林 : どういう基準でのせるか。

岡田委員長 : 日本野鳥の会に観察会をお願いしてやった。久しぶりにアドバイスをもらうのもありかなと。

今枝委員 : 当時と見せ方がだいぶ変わってきている。体験学習のやり方も。

オオバ小林 : スマホのバーコードがあって、それをおすやり方もありますね。

岡田委員長 : その辺も、またアドバイスをもらいながら、植生は断面図を活かしながら。

オオバ小林 : 続いて、全体の案内図と注意板ですね。

岡田委員長 : 左側の言葉に対してもご意見いただきたいのと、注意書きは、芝の緑地の場合にどういう注意が必要かということ、ゴミは持って帰って下さいとか以外に、ここはある意味、本当に田んぼ・畑、その辺の事との関係を注意書きとして書いてもらったら困るのか、どうでしょうか。

オオバ小林 : 稲垣さんどうでしょうか。

岡田委員長 : わざわざ言わなくてもいいのか。

今枝委員 : 畔と書いてあるのを見て感動した。畔道は歩いてはいけないというのが多い中で、こんなことが書いてあるのを見るのが初めてなので。地権者のご理解がないと。

オオバ小林 : 長谷川さん、どうでしょうか。注意板に、農地には入らない、畔とか。

長谷川委員 : そこまでかかなくてもいい。

今枝委員 : こどもが歩いていたら、まあ仕方ないかということですかね。入るなどもかかなくてもいいと思います。

水野委員 : これだけで看板をつくって表示するのはどうですか。全体の案内図の中にこれと同じにするのではなくて。これは付近の案内図であって、こういったものは別に看板を作って、いくつか所要所に立てたほうが良いと思う。せっかくの案内が、という気がする。立てることは良いと思う。

岡田委員長 : 別にしたほうが良いということですね。

オオバ小林 : 別にすると。では、マメナシ看板。

増田委員 : 今ある看板はダメなのですか。あれは凄くまとまっていいですよ。

岡田委員長 : そうしたら、ちゃんとした看板屋にそのままの板面内容でいいですか。あのベースはどこにどうあるのですか。

増田委員 : あれは、すごくいいですよ。

岡田委員長 : まずは情報もらえますか。

増田委員 : 編集なしでいいですよ。あれはすごくいいですよ。だれが作ったのだろうと思っていました。

今枝委員 : インターネット上にははっきりかいてありますよ。

オオバ小林 : 続いて施設関係です。

①各委員からの意見シートについて (①、②順番入れ替わり)

(資料3 説明)

<広場について>

岡田委員長 : 広場の上だけ管理用の車が入るので脱色透水アスファルト舗装。あとのところは土舗装。

<ビオトープについて>

オオバ小林 : 斜面から染み出し水が反対側からあって、散策でぐるりと回すのはジクジクしているのでできない。それから、シンプルなかたちにしないと維持管理に手がかかる。特にジクジクの向こう側はどうすればいいのか、などがあるので難しい。逆にここは周遊ではなくて、静かに自然を観察する場所にしたほうがいいのではという事です。池の水が抜ける、太良池の水位と差があるので、そのままにすると干上がるのではという事があり、遮水シートや水が抜けないようなものをやった方がいいのか、粘土で抑えるのがいいのか。この辺についてアドバイスがあれば皆様の意見を聞いて、委員長のコメントがあります。このビオトープ池について書いた方、意見のあるかた、挙手をお願いします。

岡田委員長 : 水路が直接に見えて変だとおもわれたと思いますが、あれは構造物のコンクリートの柵がそのまま残してあり、どこまで壊すか、というのもあります。

オオバ小林 : お金がないので、かけないところはかけない。

増田委員 : やりたかったらやればいいと思いますが、そこまでしてビオトープをやるのかという問題だけだと思います。

オオバ小林 : 常時水位から1mくらい高い位置なので、この辺りが砂質なので水が抜けてしまいますよね。抜けていい、砂嘴みたいな形にしておいて、それはそれでよいですが、ただ、水鳥は来ない、カワセミは来ないとか、そういう話になってしまいますよね。

増田委員 : いや、どちらでも。どうしたいか、ということ。こどもが入って遊ばせたいなら遮水シートも。

オオバ小林 : ここまで広場が来て、近い場所には水際の近くまで行けるんですよ。

今枝委員 : そこまではいけるのですか。
オオバ小林 : 普通は行きませんが、観察はできる。
増田委員 : こどもは何をするかわからないです。
オオバ小林 : 確かに小段を歩いていけば行けてしまう。
増田委員 : いろいろな生き物を楽しませたいのなら、遮水シートを入れた方が生き物はいつもいます。
オオバ小林 : 干からびて死ぬよりは。
増田委員 : でもそこまでするお金があるのか、とか。
オオバ小林 : お金のことを言えば安くしたいばかりです。
今枝委員 : 水色の部分の左上の白い部分はいつも水が流れてくるのですよね。
オオバ小林 : ここはジクジクしています。色が抜けているだけで、ここに何かあるわけはありません。
今枝委員 : いつも水があるという事ですよね。干上がるという事は大丈夫なんではないですか。
オオバ小林 : ではここは粘土程度の土抑えにするという事でいいですか。
増田委員 : 本当は何もしない方がいいと思う。遮水シートは本当は入れない方がいいですが。
オオバ小林 : 遮水シートはしない。

<散策路について>

今枝委員 : 老人憩いの家から降りてくる道、ここは整備しなくてもいいが何かサインでここもいいよというものがあつた方が。実際景色はこちらの方がいいが、植生はこちらの方がいい。この中を降りて行って田んぼが見えてくるような感じがいい感じなので。
オオバ小林 : ここが地元の道なのですね。
井上委員 : フェンスのあるところから道は伸びている。
オオバ小林 : コースとしてご案内できるかは市でチェックします。

<デザインについて>

今枝委員 : 屋根の色はグレーですか。
岡田委員長 : 茶色が二人くらいいました。
今枝委員 : 面積が広いので。
岡田委員長 : 広場からは見えません。少しオシャレなイメージです。
今枝委員 : ちなみに門扉は。
岡田委員長 : 亜鉛びきのままです。

<周遊ルート設定について>

オオバ小林 : 文教大さんの帰り道にこちらの道を通るとちょうど堰堤にあたるので、行って戻るよりはいいのですが、ただこれは農地のすぐ横を通るので、看板にこ

ういう風に歩いてくださいとは言えないという意見がありました。だから観察会等で歩く分には了解をもらってここを歩いていくという運用をしたいところですが、ご意見いただけますでしょうか。

今枝委員 : 実際に観察会でそこまで歩くとなるとすごい距離です。途中で、足が痛くなる。どちらかというと、健康目的のイベントのほうがいいかなと思う。

オオバ小林 : サインとして表示しなくて、観察会などで今枝さんのような方が何人か連れて通るときにはいいよというくらい。農地の横を人が歩くという事です。

今枝委員 : ここは私道ですか。

長谷川委員 : 土地改良区です。農道です。

今枝委員 : 何メートルくらい。

井上委員 : 軽トラが入れるくらい。

今枝委員 : だったら、普通に車が通っているという事ですよね。

オオバ小林 : たまに季節のいいときに歩くくらいならいいですかね。サインはなしで、歩くときには通ってもいいよ、ということで。

<その他>

オオバ小林 : 工業者に切ってはいけない樹とかの講習会をやった方がいいのではないかなという意見。

増田委員 : ただ間違えることはあるので、違ったらしょうがない。

オオバ小林 : 白兵池のハンノキ林は、お金はないですがやはりやった方がいいでしょうか。

柴田委員 : ハンノキ林はやったほうがいいです。ここしかないですから。

オオバ小林 : これは相談ですね。

柴田委員 : そもそも水辺らしい水辺がないでしょう。ハンノキ林の群生地はここしかないです。

オオバ小林 : 何をやったらいいですか。周りのヨシを刈ったりとか。

岡田委員長 : ヨシ刈りと、後は何を。

今枝委員 : 柴田さん。実際に来年度ぐらいに勉強会か何か開いて保全員の募集とか、しないといけないでしょうか。

増田委員 : 方針をたてないと。

今枝委員 : 毎月1回草刈りをしたら、結構自然植生が回復してきました。

柴田委員 : ハンノキ林を燃やしてもいい。

増田委員 : 半分燃やすというのはいい考えだが難しい。

オオバ小林 : コナラを皆伐した後については。

増田委員 : 何もしなくていい。

今枝委員 : シェルターのワークスペース下は空いていますか。

岡田委員長 : 空いていません。土留の壁になりますので入れません。

(2) 保全活用について

①保全活用計画書(案)

(資料4の説明)

- オオバ小林 : 立案した活用計画について、これはもう進んでいるという事でよろしいでしょうか。
- 事務局(市) : 県に補助金をもらうためには、こういった活用計画が必要という事で、県に一度見てもらったのですが、また実際に補助金申請をする中で、もっと具体的な説明しろということもあるとは思いますが、一応案として県には見ていただきました。
- オオバ小林 : あくまでも(案)で、これから県と相談しながら作成していく。積極的に書くぶんには全然だめとは言われないので、やりたいことがあれば無理のない範囲で書いていけばいいと思っております。
- 今枝委員 : これは、1年半くらい前に言っていた、法律が変わったからと言っていた話のことですよね。
- オオバ小林 : これは愛知県の補助金、整備のお金をもらう条件の話になります。もうひとつの資料5、これが法律改定のものになります。ご紹介よろしいでしょうか。

②保存活用計画について

- 事務局(市) : 文化財課の浅野です。保存活用計画について説明をさせていただきます。会議の最初の報告事項の中でお話をさせていただいたところと重複するところがありますが、大草のマメナシ自生地の保存活用計画につきましては、昨年度、愛知県の教育委員会から保存活用計画を作成するよう指導を受けまして、今年度、私ども文化財課の方で作成に着手をしています。保存活用につきましては、内容としては計画策定の目的、文化財の基本情報、文化財の名称から始まりまして、どのような経緯で指定したか、基本情報。保存活用についての現状と基本方針。これからの整備の方針、また、現状変更等の考え方という事で、このような現状変更については認められる、または認められないという内容。マメナシ自生地についても今後の整備の運営体制について定めていきます。認定制度につきましては、今年度の4月、愛知県文化財保護条例の一部改正がありまして、保存活用計画の認定が申請できる、とういうのが変わりました。この活用計画の中で、将来現状変更等が行われる具体的な行為と区域を特定したものをこのような形でその計画が認定を受ければ、現状変更にあたっては事後の届け出で行うことができるようになります。私どもと致しましては、今年度中に市の文化財保護審議会、県の文化財保護審議会の意見を受けまして、策定、認定を目指していくこととなります。
- オオバ小林 : この場所の保全活用を国の施策として活用していくというのが重要なところなんです。我々の太良のエリアの中で位置づける。ちょうど環境調査もやっていますし、専門家の方々もいらっしゃいますので、この機会に先陣を切っていいものをつくって記していきたいと思っている。特に、増田委員と今枝様等におかれましてはマメナシの非常に重要なところですので、専門的な立場の

委員として、今後もご意見を頂きながら、この計画を作っていきたいと思っておりますのでよろしくをお願いします。

今枝委員 : 変更するとき毎回やっていたものを、保存計画を出せばやってしまってもいいということですよ。

事務局(市) : かなり具体的に記述をしないとできないのですが、計画として決まっているものについては認められる。ただなかなか難しいところもありますので、どこまで表現が必要かというところもあります。県としても初めてこの活用計画を作っていくものなので、相談しながら、なるべく認定を受ける以上は、とりあえずできるように進めては行きますけど、ただ相談しながらやっていく事にはなります。

今枝委員 : 愛知県で初めてですか。

事務局(市) : 他の市町村はわかりませんが、4月に県条例の法改正があって、保存活用計画を作ることができるというものがあったものですから、たぶん初めてになるかもしれない。

今枝委員 : 最初は、とりあえず今年の2月に出すのが目標という話があったということは、県の方はその体制がまだできていなかったという事ですね。

事務局(市) : 去年の話としては、国の文化財保護法が去年改正されて、国として文化財について保存活用計画ができるというのがあって、それに準じて県については、今の所決まりはないけれど、それに準じてむしろ作りなさいよと。いよいよ県も国の文化財保護法の改正を受けて、県条例についても改正を受けて制度化したという事ですので、去年の段階よりはより厳しくなっているところはある。

オオバ小林 : 初めての取り組みなので、市としてもいい事例として積極的に規定を作って、それにのっとって保全・保存活用をしていきたいと思っていますので、それぞれ個別によろしく願いいたします。続いてその他に入ります。

(3) その他

①公園名称、地点名称について(公園名称部会)

オオバ小林 : 以前から公園の名前をできれば地域の方々に決めて頂いて、末永く愛着を持っていただきたいという事で、委員の方々からの意見を参考例として示しながら、地元の方々にアンケートをお願いしました。まず概要報告を行います。それから両区長様から傾向についてご説明を頂ければと思います。公園名称について結果のご報告です。地元の大草東区と小牧ヶ丘区、両区長様を通じて回覧板で地域の皆様からネーミングの募集を行いました。地域からの提案が出そろいました。今年の7月から8月まで地元にお住いの方々に回覧板で配布して、提案名称を記入していただき回収をいたしました。

(追加資料2説明)

オオバ小林 : 公園の名前です。地元からこれだけのご提案を頂いていますので、この公園のネーミングについて、この委員会で話し合っていきたいと思います。稲垣委員と中川委員から状況についてご報告をお願いしたいと思います。

稲垣委員 : 今話がありましたように、大草東の地域へ回覧として回しました。その結果、ここにありましたように、“だいらの里”という名前が結構ありました。この地区としては“だいらの里”でいいかなと、自分なりには思っております。いずれにしても地域で回覧して皆さんに名前を出していただいたということは間違いありません。“マメナシ”もあったが、それより“だいら”の方が多かったと思う。そんなことで、みなさんにも一緒に考えていただきたい。

中川委員 : 同様に小牧ヶ丘におきましても回覧板を回させていただきました。特に、“小牧ヶ丘”という名称だけは避けてくださいというお願いだけは致しました。その結果として出てきましたのは、何がアピールできるのか。それからこの公園たるものはどこにあるのか。だいらでわかりますか。だいらってどこにあるの。こういう観点である程度、小牧市の東部なら東部地区にあるよという、ある程度の位置づけを込めたように。それと、ここでアピールできるものは何かということで、マメナシの樹、天然記念物にも指定されたということから、この“マメナシ”をうたって来られる方が多かったように感じる。また、総合して自然でもいいのではないかとこの声も上がっていました。

オオバ小林 : 地名とマメナシと自然。傾向は明確に出ていましたね。では岡田委員長に講評を頂いて、これをどう決めていくかをやりたいと思います。

岡田委員長 : 本当に長い間やってきた中での最後です。委員長決めてくださいという声もありましたが、もう一回地域に関わってもらってということで。それで、出てきたのが“だいらの里”でくるのか、“マメナシ”でくるのかの二つになりました。非常に思い入れの強いマメナシの部分、途中で県の天然記念物指定もあったので、ふたつ取って付けたみたいですが、例えば“だいらの里”サブタイトルで“マメナシの花が咲く”くらいが欲しいですね。ちょっとうまく入れられるようなネーミング。どちらかにしてしまわずに。それでもいいのかなと。大きくは“だいらの里”、地域そのものの名前。それで、決定的にここの地域で3つのため池が残っているよということと、天然記念物のマメナシがあるので、“だいらの里”そして“マメナシの花咲く”が小さくサブタイトルで入るような、何かうまいまとめ方ができればなど。皆さんのこの情報を見ながら、そういう風に思ったりしていましたので。最後の最後なので忌憚ない、皆さんもう一回ご意見を。

井上委員 : 両方とも取って付けたようですが、“だいらマメナシの里”はどうでしょうか。

近藤委員 : 同じく。

田口委員 : お任せします

倉持委員 : “マメナシの里”。

鳥居委員 : 公園の全体をいうのなら、“太良の里”。

鈴木委員 : お任せします

- 稲垣委員 : “だいらマメナシの里”
- 岡田委員長 : 平仮名とカタカナが混ざるなら、漢字で“太良”。太良にはルビをつける。ひらがなで“まめなしの里”。
- 長谷川委員 : 先生の意見で。
- 水野委員 : 地元の皆さんにつけていただいて。
- オオバ小林 : 今出ているので一番多いのは「だいらマメナシの里」。「^{だいら}太良まめなしの里」
- 増田委員 : 公園名称だからカタカナでなくてもいいです。みなさんの意見で。
- 今枝委員 : 「だいらまめなし」と全部ひらがなで書く手もあるが、どこがどこかわからなくなる。
- オオバ小林 : それも書いてみましょうか。「だいらまめなしの里」。では、①「だいらマメナシの里」①' 「^{だいら}太良まめなしの里」①" 「^{だいら}太良マメナシの里」①" 「だいらまめなしの里」②「だいらの里 マメナシの花咲く」③「マメナシの里」。では、委員の方々、皆さん1票です。まずは、お気に入りのものを一つ。①①' ①" ①" は共通して①としておいて、①②③の中から決めてもらって、もし①になったら①の中からまた選ぶという2回、決議を採りたいと思います。頭の中で反唱したり、字面を見てこれがいいかなというものを。自分の思いだけでなく、これが世に出た時に、市民の方々、地域の方々が見た時にわかりやすい、この場所が伝わりやすいものを選ぶという事で、ずっと名前が残るわけですから大事な役割です。では挙手できめます。ひとつ目は「だいらマメナシの里」これは漢字平仮名カタカナ自由です。ふたつ目「だいらの里 マメナシの花咲く」というサブタイトルがある。そして三番目が「マメナシの里」以上です。
- 岡田委員長 : 三番目の「マメナシの里」は平仮名も。
- オオバ小林 : 「まめなしの里」ですね。これが③' で「マメナシの里」が③" ですね。③はこれでふたつになりました。「だいらマメナシの里」か「だいらの里 マメナシの花咲く」。それから「まめなしの里」。
- 岡田委員長 : 先ほど太良の里だけでもあった。
- 鳥居委員 : ②で。
- オオバ小林 : ②の中で。これになったらやるかどうか聞きましょう。大事な局面になりました。ひとり1票必ず手を挙げてください。
- 今枝委員 : 僕たちも挙げていいですか。
- オオバ小林 : はい。これは委員全員で。まず①「だいらマメナシの里」がいい人、手を挙げてください。9。②「だいらの里 マメナシの花咲く」これがいいと思う人、手を挙げてください。3。③「まめなしの里」1。では、この結果から、まず「だいらマメナシの里」に決まります。皆さんこれでいいですね。では、「だいらマメナシの里」か、「^{だいら}太良まめなしの里」か、「だいらまめなしの里」か、「^{だいら}太良マメナシの里」。平仮名カタカナ、漢字平仮名、平仮名平仮名、漢字カタカナ。組み合わせ順列ですね。
- 今枝委員 : ここで何か問題点はないですか。

- オオバ小林 : 太良に関して、公園の名前でルビを打つというのではありませんか。
- 井上委員 : 太良というのは読みにくいですよ。
- オオバ小林 : 大半は漢字だと読めない人が多いのではないかとこの事ですね。まず、市の方でルビ付きの公園名というのがありますか。これはちゃんとした公園の名称ですよ。
- 事務局(市) : ルビ付きというものはあまり例がないですが、読みにくいという事で、名前が読みやすいように書いてあっても特に問題はない。
- オオバ小林 : 正式には漢字だけれど、看板にルビがあるという事ですね。
- 事務局(市) : 正式としては、ルビがあるのが正式という意味ではなくて読みにくいからルビを打つという意味です。
- オオバ小林 : 基本的には漢字なら漢字が正式名称になるという事ですね。問題にはならないですね。もう1回行きます。あと、マメナシの里はいいですか。チェックがかかる、この名称を使つてはいけない、などないですか。いいですね。自生地です。「だいらマメナシの里」平仮名カタカナ、「^{だいら}太良まめなしの里」ルビあるなしは別にして漢字と平仮名。平仮名で「^{だいら}だいらまめなしの里」か、マメナシがカタカナの「^{だいら}太良マメナシの里」。平仮名漢字カタカナの組み合わせだと、意外に雰囲気が変わりますね。これを、順番にA・B・C・Dとします。一人1票。AかBかCかDか心に決めてください。いいですか。
- 岡田委員長 : 先ほど落ちた人も、もう一度投票していいですか。
- オオバ小林 : 当然、この中の人全員です。いいですか。まず最初の平仮名カタカナの「^{だいら}だいらマメナシの里」の方、手を挙げてください。3。続いて漢字平仮名「^{だいら}太良まめなしの里」の方、手を挙げてください。6。平仮名で通して「^{だいら}だいらまめなしの里」の方、手を挙げてください。1。次、漢字カタカナの「^{だいら}太良マメナシの里」の人、手を挙げてください。3。結果を見ると、1位が漢字平仮名の「^{だいら}太良まめなしの里」。2位が同点で「^{だいら}だいらマメナシの里」、「^{だいら}太良マメナシの里」。漢字か平仮名になりました。きれいに分かれています。ここで皆さんが良ければ、漢字平仮名の「^{だいら}太良まめなしの里」が、決選投票するまでもなくふたつに分かれていますから、これでいったほうがいいかなと私は思いますが、いかがでしょうか。これでいいですか。では最後。「^{だいら}太良まめなしの里」、漢字平仮名でいいと思う人、手を挙げてください。はい。満場一致で。柴田委員ありがとうございます。「^{だいら}太良まめなしの里」漢字平仮名で決定です。この委員会で無事に名前が決まったということで皆様本当にありがとうございました。地元にもご報告をお願いします。

②工事中、工事後のかかわり方について

- オオバ小林 : 今まで6回、もしくは先生などは干支がぐるりとひとまわりしました。地元から始まった活動がここまできているというのは他にはあまりないですよ。これについて、工事中工事後のかかわり方についていろいろなご意見を各委

員からもらっています。市の方でもいろいろ考えていただいているようですので、このことについてご報告をお願いします。

事務局(市) : 工事中工事後のかかわり方について説明させていただきます。委員の皆様方におかれましては委員としての任期が保全活用計画の策定までという事で、今年度末の令和3年3月末で任期満了という事になります。委員の皆様にお集まりいただきますのは本日の会議が最終となります。今後は委員会としての継続は致しませんが、令和3年度、4年度の工事中の関わり方としまして、委員の皆様には現場視察の案内をさせていただくことを考えております。現時点ではございますが、できれば令和3年度4年度、それぞれ年1回程度の視察をしていただきたいと考えております。開催にあたりましては、また郵送にてご案内する予定です。その時に、委員の方に出席いただいて、お気づきの点がありましたら、ご意見を頂きたいと考えております。また、当委員会の中で子どもたちに植樹をしてもらったらいいのではないかというご意見もありました。事務局としましては工事完了後に植樹をしてもらえるような機会を設けられたらと考えています。どのような形で開催するかについては今後、また検討してまいりたいと考えております。

オオバ小林 : 委員会としては今回で最後になりますが、現場見学という形で、皆さんで現地の方を確認していただく機会を作っていただけます。それから植樹について、完了後に植樹ができるような形で事務局としても検討していくという事で、何らかの形で地元の人と一緒に、保存活動をやっていければ、という事のご説明を頂きました。それについてご意見はよろしいですね。

③その他（自由意見交換）

オオバ小林 : マメナシサミットについてです。文化財課のほうからお願いします。

事務局(市) : マメナシサミットについてですが、桑名の多度と、名古屋の守山と行っているという話がありまして検討いたしました。今年度、マメナシ自生地の保存活用計画、それから今回の太良まめなしの里のPRの場にもなるのではないかとこの事でありましたので、まだコロナの影響もありまして不確定な部分もありますが、今年度の3月ぐらいに、文教大学さんにご協力いただきまして、開催したいというように、今のところ考えている。ただ、内容ですとか、時期だとかは、調整をとっている段階ですので、いつどこで 決まっておりますが、本年度開催したいということで今進めておりますので、また具体的に決まりましたら委員の方にもご参加いただきたいですし、地元の方々にご参加いただきたいと思っておりますので、またよろしく願いいたします。

長谷川委員 : 農地の関係者にこの活動を周知されるように、農政課さんをお願いしたい。

オオバ小林 : 今の活動の内容を、農政課様の方にもお伝えいただきたいという事です。

長谷川委員 : 地主の方に、この状態でこうなりますよという事を。いいことだから、活動を承知しておいてくださいよと。そのことを、農政課を通して伝えてほしい。

オオバ小林 : 農政課を通じての情報発信をということですね。

- 今枝さん : 農政課さんから農地を持っている人に周知してほしいという事ですね。
- オオバ小林 : 土地所有者の方にも周知しながらこういう事をやっていることをお伝えしていく。
- 長谷川委員 : 今までは固まっていなかったけれど、固まってきたから話もしやすい。
- オオバ小林 : こういうことをやっているという事さえも知らない。そのことは確実にお伝えしておきます。その他は。
- 今枝委員 : この間中止になってしまったので報告出来なかったのですが、1月11、12日に2010年に行われた生物多様性COP10の10周年のイベントが愛知県でありまして、マメナシネットワークというのを作って。マメナシサミットに参加されているような方にお声がけをして、ブースを一つ出させていただきました。そこで、小牧の自生地についてはしっかりアピールをしてきました。現地の交流とかできました。本当は10周年記念のイベントを春秋どんどんやるつもりでしたが、コロナの関係で、このキックオフイベントだけになってしまいました。皆さんに知っていただけたらと思い報告しております。ちなみにサミットは出来たら花の咲く時期にギリギリ3月にやればお花も見ていただけるのではないかとというのが僕の気持ちです。
- オオバ小林 : 花を見ながらという事ですね。それでは他の議題、よろしかったでしょうか。

4. あいさつ

- 事務局(市) : 活発な議論、貴重なご意見いただき、どうもありがとうございました。それでは事務局を代表致しまして、みどり公園課長丹羽よりご挨拶をさせていただきます。
- 事務局(市) : 本日は活発な意見たくさんありがとうございました。柴田委員も協力していただき、満場一致で名前の方を名付けられた。そこが一番盛り上がったのかなと思っております。現委員の皆様との会議は本日が最後となるところであります。平成30年度の9月より、約2年ちょっと、長い間この検討委員会でいろいろご意見をいただき誠にありがとうございました。今後委員の皆様にご議論いただいた、よりよい公園となりますように、私どもとしても精一杯取り組んでまいりたいと思っております。ありがとうございました。
- 事務局(市) : 最後に基本計画では27年度から3年間、今回の検討委員会ではまた3年間。岡田先生、最後の挨拶をお願いします。
- 岡田委員長 : 本当に皆さん永い間ありがとうございました。最初に言いましたように、最初からのスタートから12年目です。やっと来年、再来年で形になりますので、地域の人たちに声掛けご協力いただいたものが出来上がります。僕自身は都市の公園部分をメインに緑地空間デザインをやってきましたが、今回自然生態環境に強いオオバさん、それからまさに専門の増田先生にも入ってもらって、より環境にやさしい方法と管理がしやすいことを、最後デザインとしてどうまとめるかを、オオバさんと来年3月までやらせていただきます。もともと設計の人間ですので、普段はべったり現場について最後までやっている

のですが、何らかの形でまたポイントポイントを見れるようなご配慮を頂ければと思っています。委員会としては、途中、皆さんが見れるような設定もしていただきました。皆で作ってきたということと、非常に特殊な、ある意味で新しい自然環境の子どもたちへの場。地域の人たちの場。そういうものがこれでやっと思えるのかなと。今回コロナで、僕、名古屋市の名東区の1万歩コースの近くに住んでいますが、本当に都市の人間たちは緑の中を歩いています。小牧市も、これだけ緑の環境が多いですが、実際には近くへ行ける場所というのがそも数がない。その中の大事な一つとして、非常に長い時間かけて皆さんとやってこられたのが、来年、再来年で形になりますので。また看板のこともまたちゃんと詰めていきたいので、また、いろんな形で、委員会としては開かれませんが、皆さんの力を借りながら来年、再来年に向けてやれることをまたご協力お願いしながら、やれればと思います。市の方もありがとうございました。

5. 閉会

事務局(市) : これで予定しておりました議事はすべて終了いたしましたので、閉会とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。